

日本比較薬理学・毒性学会拡大評議委員会 議事録 (案)

日時：平成17年9月30日 第140回日本獣医学会学術集会

場所：かごしま県民交流センター(鹿児島市)

議長：唐木先生(日本学術会議)

出席者：伊藤茂男、大田利男(北大)、種池哲朗、北澤多喜雄(酪農大)、石井利明(帯広大)、大倉徳太(上川NOSAI)、尾崎博、堀正敏(東大)、下田実(農工大)、鈴木忠彦(岩手大)、小森成一、海野年弘(岐阜大)、松尾三郎、清宮健一、中川博史、竹内正吉、東泰孝、中嶋秀満(大阪府大)、佐藤晃一(山口大)、赤堀文昭、白井明志、折戸謙介(麻布大)、佐藤宏(鳥取大)、清水一政、中條真二郎、金田剛治(日獣大)、池田正浩(宮崎大)、白石光也(北里大、薬)、宮本篤(鹿児島大)

(1) 新任の先生の紹介(大阪府大・竹内先生より)

大阪府大：東泰孝先生(助教授)、中嶋秀満先生(助手)

(2) 国公立大学獣医学協議会報告(東大・尾崎先生より)

新たに就任された吉川康弘会長ならびに田浦保穂副会長より挨拶があり、法人化後、各大学の自助努力は追い風的になっていること。しかし、いずれ規模を含め限界が見えること。獣医学として臨床教育の充実、公衆衛生を含む社会対応、生命科学の3つの基盤研究のニーズに応え、人材の育成・研究の推進が必要で、教育連携、外部評価の構築、そして最終目標である再編を目指すことが責務である旨、発言があった。

各大学の現状が報告された。

大阪府大：本年4月から法人化が実施された。3分野6大講座、教員定員53名体制がスタートした。

鹿児島大：平成17年から21年にかけて教授7、助手3の教員増を図る。また、平成17年度には新興感染症ならびに臨床病理学の2講座が立ち上がる。

宮崎大：昨年報告した教育改善計画が実行に移されている。

山口大：17年度に寄生虫学講座ならびに生産動物医療の助教授の2名の選考が終わる。18年度は放射線臨床講座の教授1名を選考する予定である。

鳥取大：昨年は3名、今年は1名の定員増を図る。うち2名は鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターに配置する。

岐阜大：課程、分野に変わり、14分野36名の教員が充足した。

農工大：11名増員の36名体制は決まっている。うち、4名の増員は完了した。

東大：臨床・食品衛生管理専門大学院を概算要求したが、文科省へ上がることはなかった。

岩手大：7名増員は完了し、あと2名を残している。

帯広大：学部独立専攻の畜産衛生科の学生募集を行った。また、学士編入制度を開始した。

北大：人獣共通感染症研究センターの人選が終った。

獣医学再編について

学生定員増は無理というが、分野によっては獣医師が明らかに不足している領域がある。総定員について医師会との調整はできないのか。

家畜病院予算の問題

今後の予算要求の根拠とするため、監査法人に経営診断を依頼した例が東京大学から紹介された。

(3) 私立大学獣医学協議会の報告（酪農大・種池先生より）

これまでに獣医学教育の充実のための私立大学相互評価の報告書を1次、2次、3次と行う、報告書を提出してきた。

今後、改善目標の取り組みに対する4次の相互評価を行うための委員会を立ち上げるための協議が開催される予定。

(4) 全国獣医学関係代表者協議会の報告（唐木先生より）

全国協議会、日本獣医師会、日本学術会議の三者が協力して文科省と相談をしつつ、獣医学教育の外部評価を行うことが着々と進行している。獣医師会の中に委員会が設置され、10月から本格的協議が始まる。

20期の日本学術会議メンバー210名の中に、獣医からは3名が入った。一方、農学分野はこれまで30名だったのが15名に減少した。

(5) 幹事校に関する規約の確認（東大・尾崎先生より）

開催大学が幹事校に当たり、その先生が副会長に就任する。

大学のない地区で行われた場合、それが東京地区の場合は東京地区の大学の持ち回りとする。

幹事校は、シンポジウム、一般演題、拡大評議委員会、若手勉強会等の会場の手配を行う。

評議委員会の研究会における講師の依頼、茶菓の準備、評議委員会での議事録の作成、出席者名簿の作成。

一般演題のプログラムの作成、座長の決定。

シンポジウムがある場合は、それを含めたプログラム全体配置を考える。

(6) 平成18年春期獣医学企画シンポジウムについて（岐阜大・海野先生より）

平成 18 年春の日本獣医学会学術集会は、日本生物科学研究所主催で 3 月 18-21 日に筑波で開催され、日本獣医師会大会と共同開催であること
企画シンポジウム形式で行われる予定で、薬理毒性学会からは、若手勉強の会から提案のあった「基礎獣医学から腎臓を考えてみよう～腎臓学の基礎から臨床まで～」を行いたいとの提案があり、了承された。
一般演題は、ポスターのみになる予定。12 月 8 日頃が締め切り日になる予定。

(7) 獣医学科役員選挙について（麻布大・赤堀先生）

前回の投票率が極めて悪かったので、今回は是非投票して欲しい。12 月発行の雑誌の中に投票用紙が挟みこまれている。

これまでは、各分科会と全国区で得票率の高かった方をそれぞれ選出してきたが、今回から、全国区で得票率の高かった方のみの選出となった。

* 我々の分野からの投票がないと、我々の分野から代表が出られなくなることを意味している